



2025年度 エプソン情報科学専門学校 実行計画 実績

学校長
印鑑省略

学校評価項目	【教育理念】	【教育方針とは】	【長期ビジョン】 社会人基礎力と専門性を有し、社会になくてはならない人材育成し続ける
学校の教育理念・目標 ①	本校では、開学以来変わることなく、技術者として、社会人として優れた人材となれる学生の育成を目指し続けています。 その基となるのが、「三心・三共・三学」の理念です。 三心：通いあう心、信じあう心、ひたむきな心 三共：共鳴、共感、共働(協働)の感性 三学：自学、究学、徹学の態度	1. 協働・共学など多様な授業の経験を通して、心豊かで自立(自律)した人材を育成する 1. 実践的な演習・実習により、確かな知識と技術力を持つ人材を育成する 1. 仲間と共に成長し、企業や地域社会に貢献できる人材を育成する	【中期基本方針:2024～2026】 1. 文部科学省の認定校として、最新の知識、技術、技能を身につけられるよう、実践的かつ本校独自の教育課程を編成し、企業や社会から求められる自立(自律)した人財を育成・支援し続ける。 2. 学生自身が本校で学びたいと思える魅力的な学校運営を目指し、学生獲得に向けた各種施策と収益改善施策を講じ、安定的な学園経営を実践する。

【学校評価の各種活動と実行計画との関連性】

①学校の教育理念・目標の定めと具体性 ②学校運営(計画立案・PDCA・諸規程整備) ③教育活動(学科見直し各種評価) ④学修成果(就職率・資格取得・退学軽減) ⑤学生支援(支援体制・健康管理・保護者連携) ⑥教育環境(施設整備・維持更新・研修などの整備) ⑦学生の受け入れ募集 ⑧財務(財政基盤の安定性・会計監査・奨学金回収等) ⑨法令等の遵守(定期監査・個人情報保護・学校評価)

*1 達成度評価(計画内容に対する実績): ◎100% ○80% △60% ×50%未満

分担	学校評価・項目	推 進 項 目		具体的な推進計画内容		到達目標(期待される成果)	評価 *1	実施事項／達成状況など
共通	①学校の教育理念・目標 ②学校運営 ⑦学生受入	1	学園の魅力づくり	1	中期計画2年次として情報科学領域の専門学校として強みを強化し他校との差別化を図る	セイコーエプソンのとの連携を更に深めると共に地域企業のニーズおよび学生ニーズを織込んだスキームを整理する	○	・エプソンのインターンシップの継続実施(26名)・内定者のものづくり塾実習(1名)
				2	高等学校のIT教育を支援・サポートし、地元で活躍できる理系・IT系の学生を拡充する	近隣高校が広げている情報系の授業に関して出前授業による支援と専門学校の長期休暇中の授業体験の拡充	○	・高等学校支援のプログラミングに関しては、昨年に引き続き出前授業を3回実施した。
				3	評価点の低い学校評価項目の改善	学校評価:3.5point(FY23・FY24) ⇒ 0.2ポイントアップ 3.7Point	○	・3.6pointと大きな変化は望めなかった。
	④学修成果 ⑧財務	3	18歳人口減少に伴う学園の構造再編	1	企業が入社後に行う専門教育・リーダー育成を専門学校の教育課程に織り込み企業へ繋ぐ仕組みづくり	1年次は企業ニーズ調査・発掘／2年次は企業との協定具体化／3年次に企業採用へ結び付ける	○	・セイコーエプソンのリスキリング研修を展開しつつ、新たな領域検討を開始した。
				4	収益改善施策の展開	予算目標の達成	○	・予算執行としては計画の範囲内であったが、次年度の出願者が大幅に減少してしまい、入学金等の資金面では苦しい状況となってしまった。
		4	退学者の削減	1	学生個別指導・補習授業・学生との定期個別面談を強化・保護者との連携(タイムリーな共有)	目標:8%以下 チャレンジ目標:5%以下	◎	・退学者:7.3%と目標はクリアしたが、事前調整、改善施策という面では課題が残る。
教務部	②学校運営 ⑥教育環境 ⑨法令等の遵守	5	遵法対応、安全衛生管理活動	1	・遵法対応、安全(転倒・怪我等の未然防止)を最優先に取り組みする ・メンタル不調による退学者を発生させない施策実施	学校医との連携強化とメンタル不調者の未然防止策の展開／学生会と連携した対話の実施 共通-4の施策と同調	◎	・学校医と連携強化し、健康診断結果のフォローや、体調不良者(メンタル含め)の診察・面談等を実施した。新しい体制での運用となったが、学校医の支援も含め小規模専門学校の学校医体制を確立できた。
				1	基礎学力を身に付けさせる ・学生のレベル差に対応できる理解度向上施策に取り組む(ミニテスト・補習) ・自主学習を習慣化し定着させる	追試験件数 1.0件以下/人(前年度1.16件/人) 、 A評定率前年度(45.5%)以上	○	・追試件数:昨年とほぼ同じ(昨年1.16件/人⇒今年1.15件/人)結果であった。年度&学科毎に状況は異なるが、昨年度と比較して、1年情報システム科と2年情報電子機械科の追試が増えた一方、情報ビジネス科の追試が減少した。学生のレベル低下に対応するため、補習やミニテストの追試などの細かいフォローを実施した。また、A評定率は43.3%であった。
	③教育活動	1	「5年後10年後の会社になくてはならない」人材」を目指した育成	2	チーム力と論理的思考力を向上させる	グループワークを充実し目標達成に役立つ計画力と協調性を身に付けさせる ロジカルシンキングの授業を継続して、物事を論理的に伝える力を身に付けさせる	○	・グループワークを取り入れた授業を継続して実施した。システム開発での要件定義、Web基礎でのHP制作、ビジネス科のチームビルディング講座、電子機械科の仮想会社による製作など、グループで協力して成果物を作り発表することによって、コミュニケーション能力向上を図った。ロジカルシンキングの授業では引き続きディベートを取り入れた。一つの話題についてそれぞれの立場で考えをまとめ発表しあった。
		2	教える力の向上(どうやって身に付けさせるか)	1	教職員自身が自分の専門領域を広げる、深堀りする	新規授業の組み込み、独自学習、通信教育、セミナー参加、資格取得等に1つ以上取り組む 非常勤講師および自身の授業評価(授業評価アンケートや面談)による実践状況把握と改善	○	・授業内容を必要に応じて更新(生成AI関連の導入など)した。 ・セイコーエプソン主催eラーニング受講。 ・授業評価アンケートのコメントを確認フォローした。
	⑤学生支援	1	学科、学年を越えて交流し、共に協力し合う人間性の教育と達成感の共有	2	教える力を磨く・鍛える	常勤/非常勤、学科の枠を超えてお互いの授業を参観して授業方法に改善を加える 授業評価アンケートによる学生満足度を向上させる	○	・常勤二人や常勤と非常勤の二人体制で授業を実施する事により、学生の理解度を把握し、授業内容を調整することができた。後期全学生対象アンケート実施済。アンケート結果を踏まえ来期授業に反映する。
		2	学生の資格取得件数の向上	1	学科・学年を超えて親睦を図るための場を設定し、学生会主体の活動を支援する	スポーツ祭、三心祭の準備から実施に至るまで全学生が満足し、達成感を得られる	◎	・学園祭は開催日まじかでの調整事項が多かったが、スポーツ祭、クリスマス会等は学生会が主体となり推進し、一体感を得ることが出来た。
	④学修成果	2	学生の資格取得件数の向上	2	ルール、マナーの重要性を授業、集会を通じて教えて実践させる	校則の重大違反なし 授業以外のイベントにおける遅刻・無断欠席者を減らす(1回平均1人以下)	△	・無許可での車通学と近隣への無断駐車違反あり。
		2	学生の資格取得件数の向上	1	資格検定合格の目標値である1人当たり4件以上を達成する	2年間で一人当たりの資格取得件数4件以上を全員が達成する	○	・全員が4件以上を達成。一人当たり8.8件(昨年度7.8件)。
	就職指導部	1	就職内定率の確保とエプソングループをはじめとした専門性を生かせる企業・個人の能力を生かせる企業への就職支援	2	学生個人の能力に応じた資格取得を推進。更に上位資格(Bランク以上)への挑戦を促す	10P以上の特別表彰を 18名以上(33%) 出す 特進クラスは全員が卒業までに10P以上取得させる	○	・10P以上は13名(27%)。特進クラスの10P以上達成者は2名(2/6名)。1年生の10P以上が16名。 ・1年生のBランク以上の取得件数74件となり、昨年度(34件)から大きく増加した。
		1	就職内定率の確保とエプソングループをはじめとした専門性を生かせる企業・個人の能力を生かせる企業への就職支援	1	校内ガイダンスの招待企業に加え、校内での会社説明会の実施を拡大。 (新規招致企業の開拓・企業との信頼関係強化)	就職内定率95%以上を確保する	◎	・就職希望者:49名内定済み。100%達成。
入試センター	⑦学生受入	1	募集者数の拡大および出願者増加に繋がる施策の展開	2	セイコーエプソン人事部との連携によりエプソン受験者、合格者を増やす。 より早い段階から自由応募検討中の学生の志望度を高め、受験者を増やす。	SEC入社率15%以上を確保する	△	・10.2%に留まった。
		1	募集者数の拡大および出願者増加に繋がる施策の展開	3	「自己分析」・「職種理解」を基礎に、書類作成や面接力を向上させる。 就活に必要な前向き度、元気をアップさせるのための授業、イベントの実施。 企業側の考え方を理解させ、就活に対し自信を持たせる。	卒業生、企業へのヒアリング、およびカリキュラム等について企業側の要望の聴取を行う エプソン特進クラスの役割を強化し、エプソンで必要なスキル・知識を向上させるアプローチを展開する	◎	・昨年に引き続き、キャリアシートによるフォローを充実させ志望動機や仕事の具体性を身に着けた。 ・新たな取り組みとして、Epsonを題材としたグループ討議を開催し、仕事の在り方や、それぞれの学生意見を聞いて、自分自身の振り替えりの場をつくった。
	⑧財務	1	経費削減・業務の効率化	1	・魅力ある学園づくりと連携したPR活動、ホームページからのアクセス者増を狙った企画・調整 ・隣県へのアプローチと学生募集活動の展開	出願者数増＝対前年＋5名	×	・前年比△53.7%(2026.2.21現在) ・長野エリアへの説明強化や他県(山梨県)へのアプローチを増やしているため、次年度に期待したい。
		2	学校の特色の周知	2	・ガイダンス参加の拡大「高校訪問数の増加」と企業とタイアップした新しい企画の試行 ・オープンキャンパス、ミニオープンキャンパスの実施内容・PR方法の見直しによる参加者増	オープンキャンパス参加者数の増＋10% ガイダンス参加者数の向上	△	・前年比74.8%と低迷 原因:①生成AIの拡張に伴いIT・プログラミングの将来性を危惧している生徒・保護者の増加 原因:②高卒の採用が好調で専門学校への希望者が減少。(新設校の影響も多少ある) ・春のオープンキャンパスは同日に2科目の授業体験が出来るように新たな試みを実施した結果、2.4倍に参加者が増えたが、以降夏から秋にかけてのオープンキャンパスは低迷してしまった。
事務局	①学校の教育理念・目標	2	学校の特色の周知	1	・経費全般の見直し ・業務フロー等の見直しによる合理化・効率化推進(勤怠管理システム／学費・各種支払方法改善)	取り組み項目と目標値の設定(前期)、具体化と効果把握(後期) LED化による電気料削減のフォロー	◎	・毎月、予算執行の予実管理を実施し執行にあたっては、ゼロベースで必要なものを積み上げ、経費関係は予算内に留めることが出来た。
	②学校の教育理念・目標	2	学校の特色の周知	1	周知方法の改善、ホームページの改善、周知先の開拓(地方紙・マスメディアの活用)	管理指標は入試センター1と2で把握	◎	・学校案内内は就職のイメージが湧きやすいよう卒業生の企業へ向いて業務内容の確認や専門学校で学んだことが生かされた事例を取り入れた。また、動画制作を実施し、ホームページ等のPR活動が強化できる基盤を準備出来た。次年度の出願者増へ繋げる。